

ここに愛がある

ヨハネの手紙Ⅰ 四章 7～21節

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めの献げ物として御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。(10)

互いに愛し合うべきことを勧めるにあたり、ヨハネはその愛がどこから来るものなのかを語ります。「愛は神から出るもの」(7)と。私たち自身が愛の最初の出所ではなく、神の愛が私たちに注がれるところから始まります。さらに、御子キリストが私たちのために十字架にかかってくださった恵みを語りながら、「ここに愛があります」とヨハネは高らかに宣言します。私たちから発生する愛は、結局は自分しか愛していない、エゴイズムに過ぎなかったりします。「ここに愛があります」と言われる愛の泉から、本当の愛を汲み上げる必要があります。私たちがまず神の愛を十分に受けるとき、愛の泉は私たちのうちで溢れ、他者に向かって流れ出るのです。アドベントにあたり、御子を遣わしてくださった神の愛を私たちの心の内から溢れ出るまでに、十分に受け取ろうではありません。